

# 関 門 開 関 実 演

こ  
う  
も  
ん  
か  
い  
へ  
い  
じ  
つ  
え  
ん

国指定史跡・見沼通船堀



平成21年 8月26日(水) (雨天・濁水時中止)

時間 10時～ / 13時～  
(約1時間30分の実演)

場所 見沼通船堀東縁一の関・二の関間

問合せ先 さいたまコールセンター(受付時間 8時～21時:年中無休)  
TEL.048-835-3156

さいたま市教育委員会文化財保護課 TEL.048-829-1723(直通)  
見沼代用水土地改良区・見沼通船舟歌保存会

協力

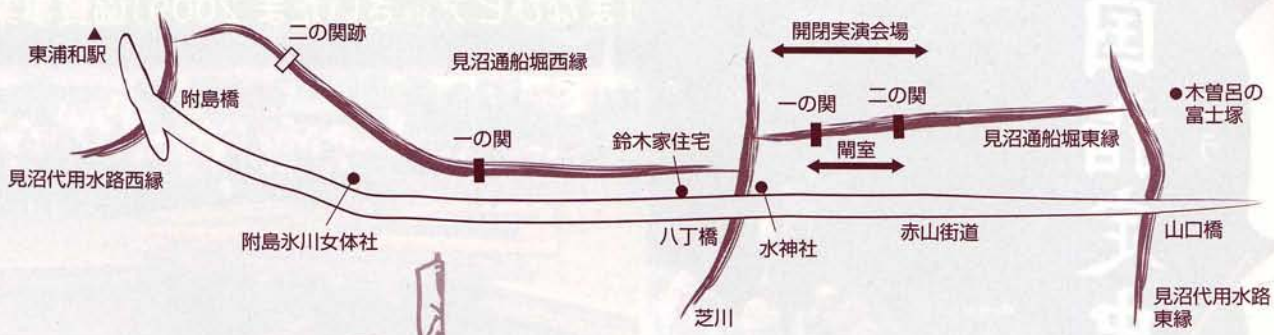


JR武蔵野線 東浦和駅から東へ徒歩約15分 駐車場はありません

- 実演の途中で、市指定無形民俗文化財「見沼通船舟歌」にあわせた踊りを公開します。
- 濁水などにより中止になる場合があります。事前にさいたまコールセンターまたは文化財保護課までご確認ください。



# 国指定史跡・見沼通船堀



見沼(見沼溜井)は徳川吉宗の命により井沢弥惣兵衛が永が行った新田開発により干拓されました。享保12年(二七二七)から翌13年に行われたこの新田開発事業の際に、見沼に代わる灌漑用水として開削されたのが見沼代用水路です。大事業を成し遂げた為永は、次に代用水路上流の地域と江戸との間に舟運を行うことを考え、享保16年に東西2本の代用水路とその間を流れる芝川とを結ぶ運河を開削しました。それが見沼通船堀です。

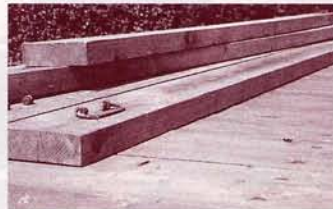
見沼通船堀の最大の特徴は、代用水路と芝川との3メートルもの水位差を克服するための仕組みです。木製の関(閘門)により水位を調節し船を通すため「閘門式運河」と呼ばれます。通船堀東縁には2基の閘門があります。

## 開閉実演の内容

通船堀が使用されていた当時と現在とでは、芝川の水位、また、橋や植栽などの堀の状況が異なるため、船が関を通過して芝川と代用水路を行き来することはできません。そこで、今回の実演では、一の関と二の関の間に船を浮かべたままの状況で、通船堀東縁の一の関を開け閉めし、実際に水位の高さが変わっていく様子をご覧ください。



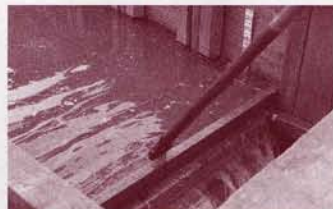
1 実演開始前の東縁一の関閘門。見沼代用水路東縁から取り入れられた水は、芝川(写真奥)へ向かって流れていく。



2 角落(かくおとし)板と呼ばれるこの板を、閘枠に取り付けたり、取り外したりすることによって閘門の開閉を行う。



3 一の関に角落板を3枚取り付けられたところ(手前が芝川側)。閘枠より上流部分の水位が徐々に上昇していく。



4 角落板を取り付ける。閘枠の鳥居柱(閘枠中央の太い柱)と水圧によって、角落板が固定される。



5 一の関に角落板を7枚取り付けられたところ。3の写真と比較すると、水位が上昇していることがわかる(実演開始後、約1時間経過)。



6 閘室内(一の関と二の関の間)の水位が上昇し、二の関を通過できるようになる(実演では船は二の関を通過しません)。

## 通船の模式図

